

NTT-ATの5つのビジョン。



 **WinActor**<sup>®</sup>

**Ver.7.3.0 リリースノート**

NTTアドバンステクノロジー株式会社



# WinActor Ver.7シリーズとは

WinActor Ver.6 シリーズをリメイクした全く新しいWinActorです。Ver.7シリーズでは、最大の特徴である「現場フレンドリー」の思想を一層進化・深化させ、初心者はもちろん上級プログラマにとっても対応可能な、誰もが使いやすいRPAを追求します。

Ver.7.3.0には以下の特徴があります。

- Microsoft EdgeのIEモード対応
- オンラインアップデート機能 ※1
- ドキュメント生成機能
- 画面状態確認機能
- Webページ用画面状態確認機能
- イベント監視機能
- Googleカレンダー連携機能
- Power Automate Desktop連携機能
- 設定インポート・エクスポート機能
- CloudLibrary検索機能 ※1
- ノード整列機能
- UIAutomationライブラリの追加、操作性改善
- 汎用HTTPライブラリ追加
- JSON操作用ライブラリ追加
- シナリオ雛形作成機能改善
- Storyboardのポッド追加及び操作性改善
- 【WinActorEye】プレビュー画面の追加
- 【WinActorEye】WinActorEyeライブラリの追加

※1 クラウドサービスとの通信が発生します。また、従来のCloudLibraryへのログインがなくなります。








## 新機能



# 新機能の表記について

このリリースノートではライセンス、機能毎の違いを説明するために、次の表記を用います。

-  この表記がある場合、NL版でご利用できます。
-  この表記がある場合、FL版でご利用できます。
-  この表記がある場合、β版、及び、フル機能版でご利用できます。
-  この表記がある場合、実行版でご利用できます。
-  この表記がある場合、管理実行版でご利用できます。



# Microsoft EdgeのIEモード対応

Microsoft Edge(Chromium)のIEモードに対応します。

IE11 の代替としてお使いいただけます。

Microsoft EdgeのIEモードで開いたページを判別し、

IE記録モードでの自動記録や、

シナリオ実行での自動操作が可能となります。

対象のWebページをIEモードで開く際は、

マイクロソフト社の公開情報(※1)を参考に

事前準備の上でご利用ください。

作成済みのシナリオにおいて、04\_自動記録アクション配下のノードについては、シナリオの修正は不要です。(※2)

17\_IE関連配下のライブラリについては、シナリオ中の古いライブラリを新しいライブラリへ置き換える必要があります。

※1 2021年9月時点では以下にIEモード設定手順が紹介されています。

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/deployedge/edge-ie-mode-policies>

※2 Microsoft Edgeのプロファイル名を「プロファイル 1」や「個人」から変更し、ハイフン(-)を含むプロファイル名とされていますと、IEモードのEdgeに対して記録したウィンドウを見つけられずシナリオ実行に失敗します。

その際は、お手数ですがハイフンを含まないプロファイル名へ変更いただくか、自動生成されたウィンドウ識別ルールの修正をお願いします。



管理

IEアイコンは対象ページがIEモードで開かれていることを示しています。



対象ウィンドウ選択時にIEモードを自動判別し、IE記録モードで記録します。

# オンラインアップデート機能 (1/2)



WinActorの本体、WebDriver、及び、ライブラリを  
オンラインで更新できるようになります。

WebDriverをユーザー自身にて更新する必要がなくなります。

メニューの「更新を確認」、または、オプション画面の設定により起動時に  
winactor.bizサイトと通信し(※)、更新情報の確認を行います。  
環境に合わせて以下の中から更新方針を選択できます。

## 「自動更新」

⇒ 更新の確認後、自動的に更新

(本体更新の場合、インストーラーが起動しますので、そこでキャンセルすることもできます)

## 「手動更新」

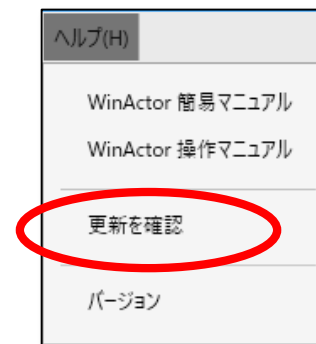
⇒ 更新の確認後、通知画面(次ページ参照)より手動で更新

## 「更新しない」

⇒ 通知画面に更新情報を表示しない

※ プロキシ環境で利用する際はオプション画面よりプロキシサーバ設定を行ってください。

※ 起動オプション「-r」を指定し、WinActorを起動した場合は、起動時に更新情報の確認は行いません。



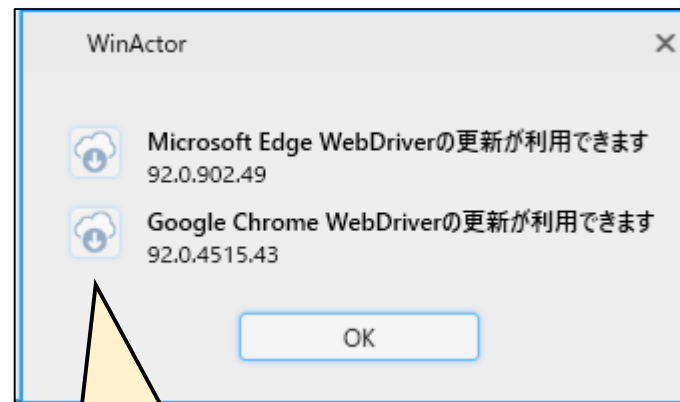
# オンラインアップデート機能 (2/2)



ユーザが自身でWinActorやWebDriverの更新モジュールを準備する必要はなくなり、自動、または、更新画面を操作することにより、更新できるようになります。

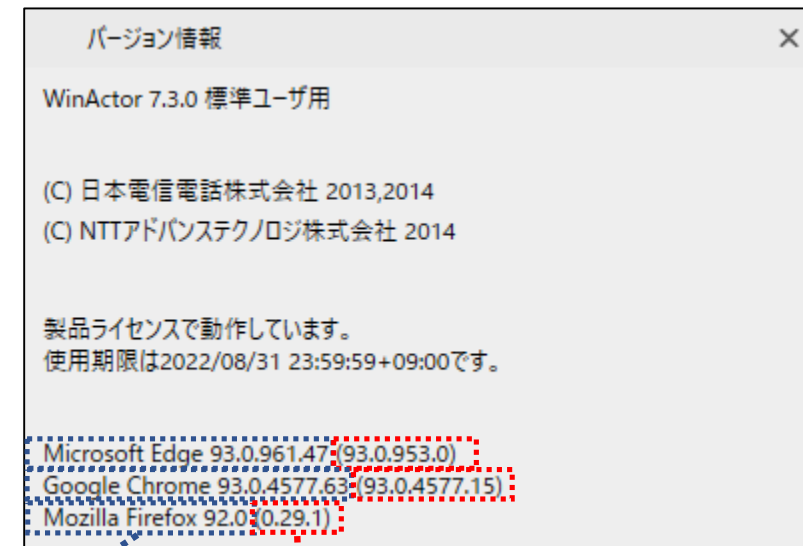


## 更新画面



クリックすることによりインストールされます。

## バージョン情報画面



更新確認中



更新なし



更新あり



フッターの右下に通知アイコンが追加されクリックすると更新画面が開きます。

更新画面にて、更新方針を「手動更新」とした中で利用可能な更新の一覧が表示され、アイコンをクリックすることにより更新をインストールできます。

また、バージョン情報画面にて、ブラウザのバージョン(青枠)とWebDriverのバージョン(赤枠)が確認できます。



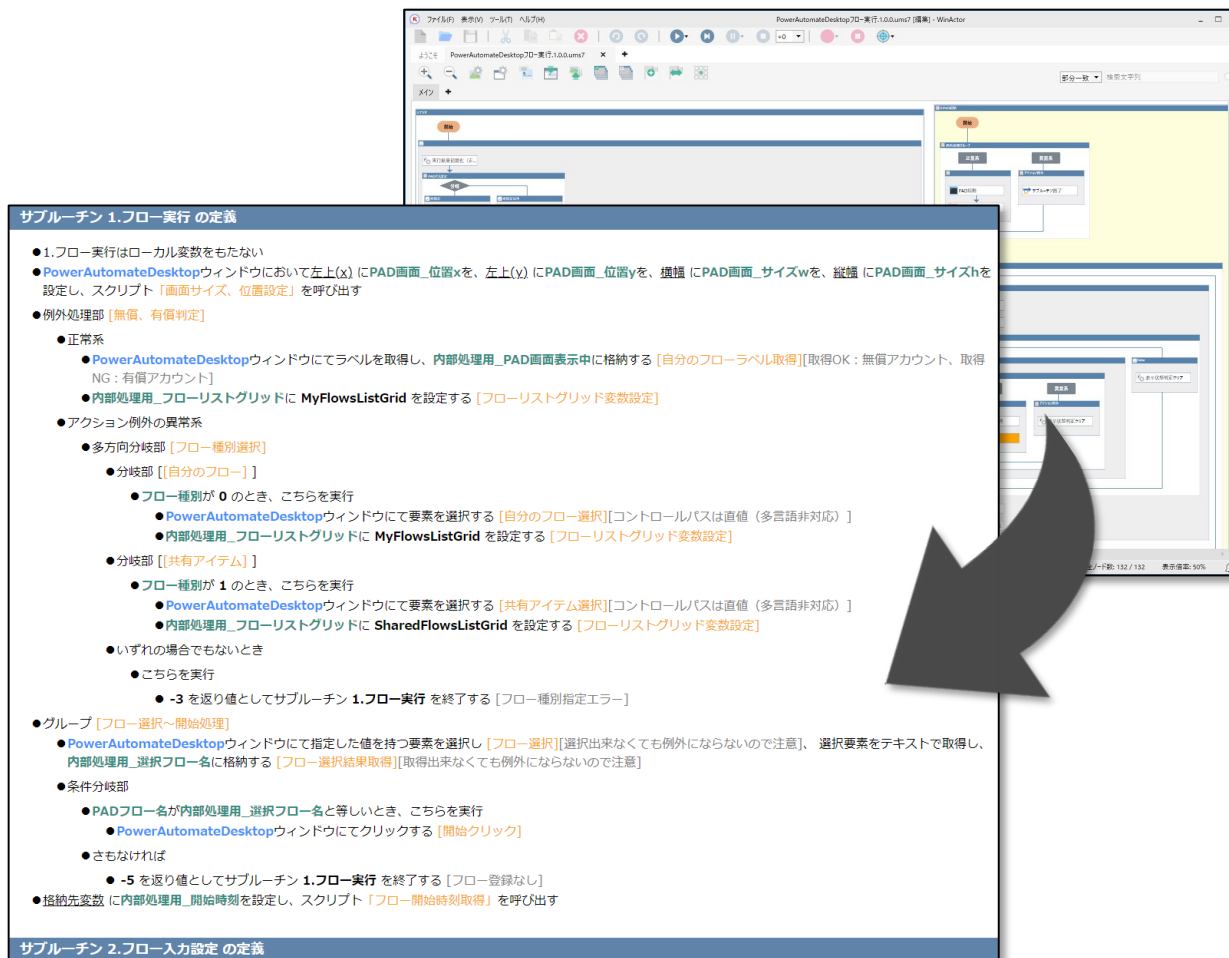
シナリオの内容を手軽に文書化できるようになります。



フローチャートに配置したノードや設定情報の概要が読みやすいHTML形式で出力されるため、効率的にシナリオの保守・運用を行えるようになります。シナリオファイルを開いた状態で、「ファイル」-「エクスポート」メニューより、「ドキュメント生成(html)」を選択してご利用ください。

※ ドキュメント生成機能は日本語環境に対応しています。WinActorの言語設定を英語にした場合も、出力されるドキュメントは日本語環境向けのものとなります。

※ 詳細は同梱の操作マニュアル(WinActor\_Operation\_Manual)の「3.2.1 ファイルメニュー ■ エクスポートドキュメント生成(html)」をご参照ください。





# 画面状態確認機能 (1/2)



シナリオ実行時に対象が**操作可能**となるまで  
ノード(※)の実行を**自動的に待機**するようになります。

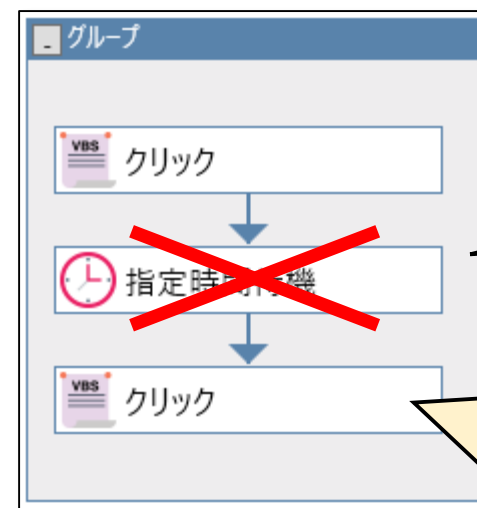
実行PCやNWの負荷状況によって  
操作可能タイミングが変化するシナリオに対して、  
指定時間待機ノードによる調整が不要となります。

自動待機機能では、無限に待機し続けるのを  
防止するための最大待機時間(タイムアウト)を指定します。  
待機時間は、ノード個別、シナリオ、オプション  
の3段階で指定できるため、  
シナリオや環境に合わせて柔軟に設定可能です。

※ 待機時間の設定が可能となるのは以下のライブラリです。

- ・04\_自動記録アクション配下のIE及びUIオートメーション関連ライブラリ
- ・23\_ブラウザ関連配下のブラウザ操作関連ライブラリ

詳細は同梱のユーザライブラリサンプル説明書(WinActor\_User\_Library\_Sample\_Manual)の4章、及び、  
ブラウザ操作シナリオ作成マニュアル(WinActor\_Browser\_Operation\_Scenario\_Creation\_Manual)の5章をご参照ください。



タイミング調整用

操作対象の要素がクリック可能になるまで自動的に待機するようになります。

(Ver.7.2以前も待機していましたが、タイムアウトし、エラーとなるまでの時間を設定できるようになります)

タイミング調整のための**指定時間待機ノード**の配置は**不要**となります。

# 画面状態確認機能（2/2） - タイムアウト設定



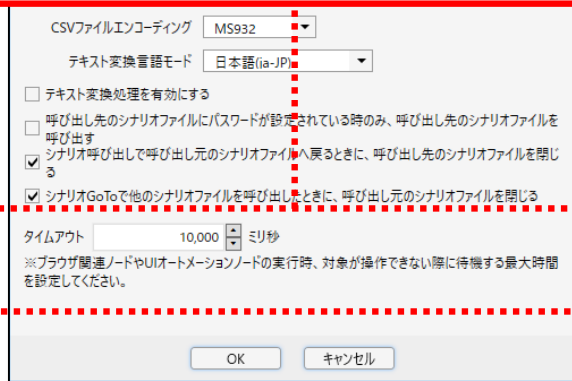
タイムアウトしエラーと判定するまでの最大待機時間の設定は以下の3段階で指定可能です。  
初期設定ではオプション画面の設定値を変更することで一律で待機時間を設定できます。



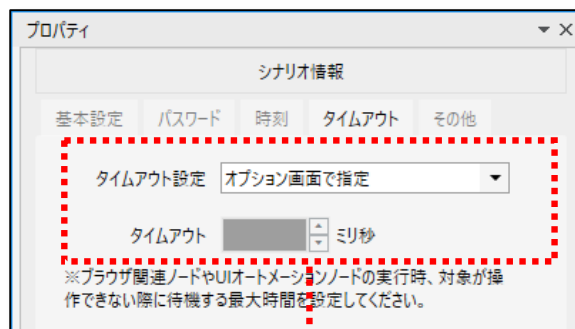
## ①オプション画面 - 実行タブ



最大待機時間(タイムアウト)を指定してください。  
初期値は「10,000ミリ秒」(10秒)です。



## ②シナリオ情報画面 - タイムアウトタブ



以下の2つから選択してください。

- ・ 「オプション画面で指定」
  - ・ 「シナリオ情報画面で指定」
- 初期値は「オプション画面で指定」です。  
「シナリオ情報画面で指定」を選ぶ場合は最大待機時間(タイムアウト)も指定してください。

## ③プロパティ画面(※)



以下の3つから選択してください。

- ・ 「オプション画面で指定」
  - ・ 「シナリオ情報画面で指定」
  - ・ 「ノードで指定」
- 初期値は「シナリオ情報画面で指定」です。  
「ノードで指定」を選ぶ場合は最大待機時間(タイムアウト)も指定してください。

※ UIオートメーション関連ライブラリのみ、プロパティ画面での初期設定が「ノードで指定」「30,000ミリ秒」(v7.2.1以前で作成したシナリオの場合は「10,000ミリ秒」となっています。  
操作対象アプリケーションに応じて操作準備に時間を要する傾向があるため初期設定を他とは変えていますので、必要に応じて変更してください。

# Webページ向け画面状態確認機能



Webページでテキストやボタン、リンク等の状態変化を待機する機能を提供します。

読み込みに時間を要するWebページや、検索結果を順次表示していくようなWebページに対して、特定の要素が表示されるまで待機することができます。

シナリオに合わせて、要素の表示だけでなく、

- 特定の値になるまで
- 対象要素が無効になるまで

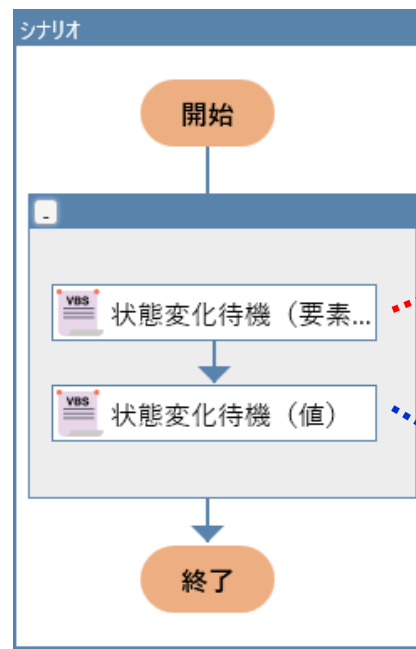
等の様々な条件で待ち合わせを行えます。

「23\_ブラウザ関連」カテゴリの

「状態変化待機(値)」「状態変化待機(要素)」

をフローチャートにドロップしてご利用ください。

検索ボタンが有効になるまで待機



指定した検索結果件数が表示されるまで待機



※ 詳細は同梱のブラウザ操作シナリオ作成マニュアル(WinActor\_Browser\_Operation\_Scenario\_Creation\_Manual)の「5.29. 状態変化待機(要素)」 「5.30. 状態変化待機(値)」をご参照ください。

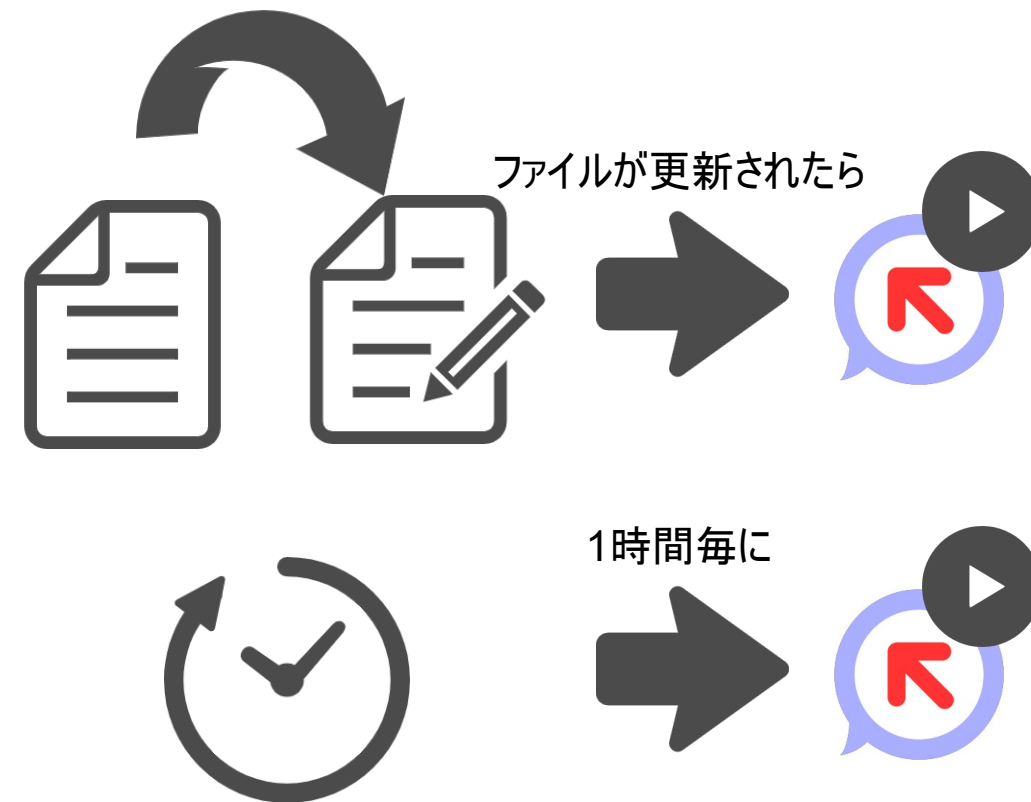


様々なイベントの発生に連動して  
シナリオやサブルーチンを実行することができるようになります。



あらかじめ登録しておいたイベントを監視し、  
外部シナリオファイルやサブルーチンの呼び出しを行います。  
一例として以下のようなイベントに対応していますので、  
業務に合わせてご利用ください。

- 特定ファイル/フォルダが更新された場合
- 指定された時間になった場合
- 指定されたウィンドウが表示された場合
- メールを受信した場合



※ 詳細は同梱の操作マニュアル(WinActor\_Operation\_Manual)の「3.9.12 イベント一覧タブ画面」  
「4.3.14 イベント監視」「4.3.15 イベント監視登録」「4.3.16 イベント監視解除」「4.3.17 イベント監視終了」をご参照ください。



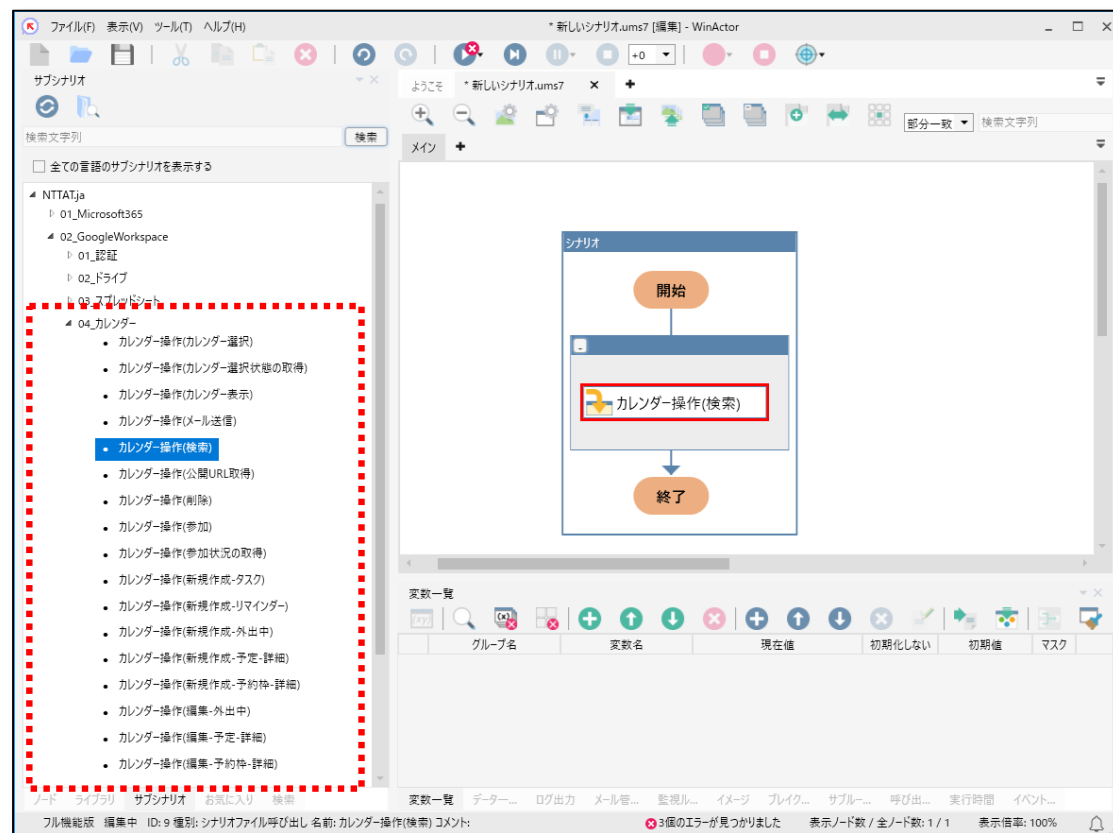
## Google Workspaceのカレンダーをブラウザで操作する サブシナリオを提供します。



「サブシナリオ」タブの

02\_GoogleWorkspace¥04\_カレンダー  
配下にGoogle Workspaceのカレンダーを  
操作するためのサブシナリオを追加します。

ライブラリと同様にフローチャートにドラッグ&ドロップし、  
プロパティ画面を設定の上で利用してください。



※ サブシナリオは日本語環境に対応しています。

WinActorの言語設定を英語にした場合も、表示されるサブシナリオは日本語環境向けのものとなります。

※ Google WorkspaceのバージョンアップやUI変更により、サブシナリオ実行に失敗するようになる可能性があります。  
その場合、更新版のサブシナリオを配布しますので、自動更新機能により更新版をご確認ください。

※ 詳細は同梱のサブシナリオサンプル説明書(WinActor\_Subscenario\_sample\_Manual)の「2.4 カレンダー」をご参照ください。

# Power Automate Desktop連携機能



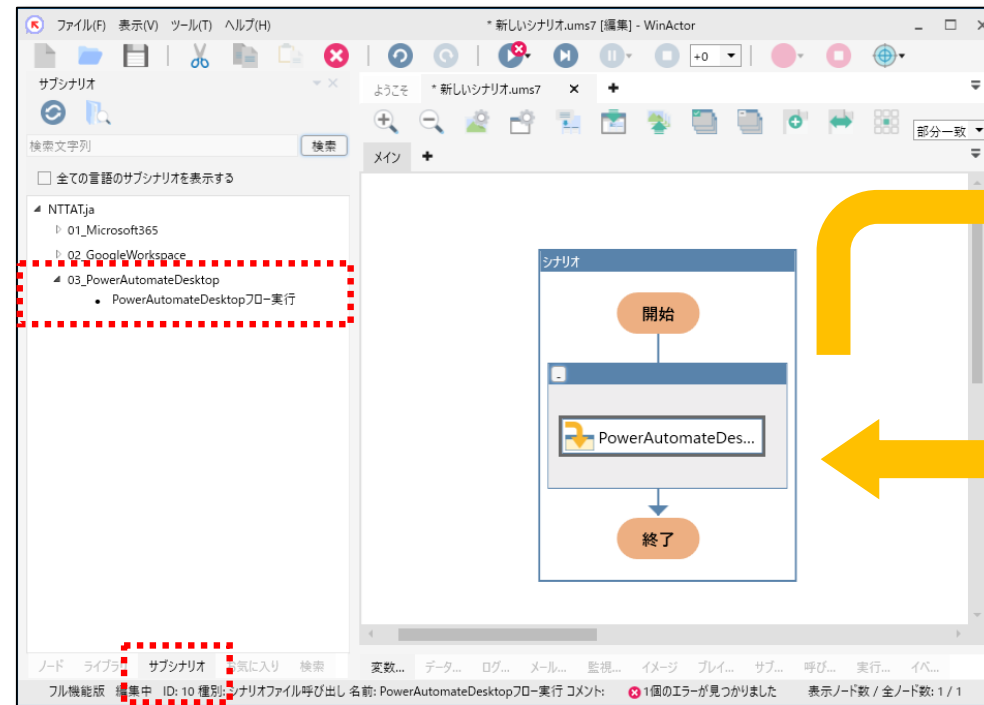
マイクロソフト社のPower Automate Desktopで作成したフローを WinActorのシナリオから実行できるようになります。



「サブシナリオ」タブの

03\_PowerAutomateDesktop

配下にPower Automate Desktopを操作するためのサブシナリオを追加します。フローの入力パラメータ、出力パラメータを指定することで、WinActorとPower Automate Desktopの間で値を連携することも可能です。



Power Automate Desktop  
フローを実行

※ サブシナリオは日本語環境に対応しています。

WinActorの言語設定を英語にした場合も、表示されるサブシナリオは日本語環境向けのもとなります。

※ Power Automate DesktopのバージョンアップやUI変更により、サブシナリオ実行に失敗するようになる可能性があります。

その場合、更新版のサブシナリオを配布しますので、自動更新機能により更新版をご確認ください。

※ 詳細は同梱のサブシナリオサンプル説明書(WinActor\_Subscenario\_sample\_Manual)の「3 PowerAutomateDesktop」をご参照ください。

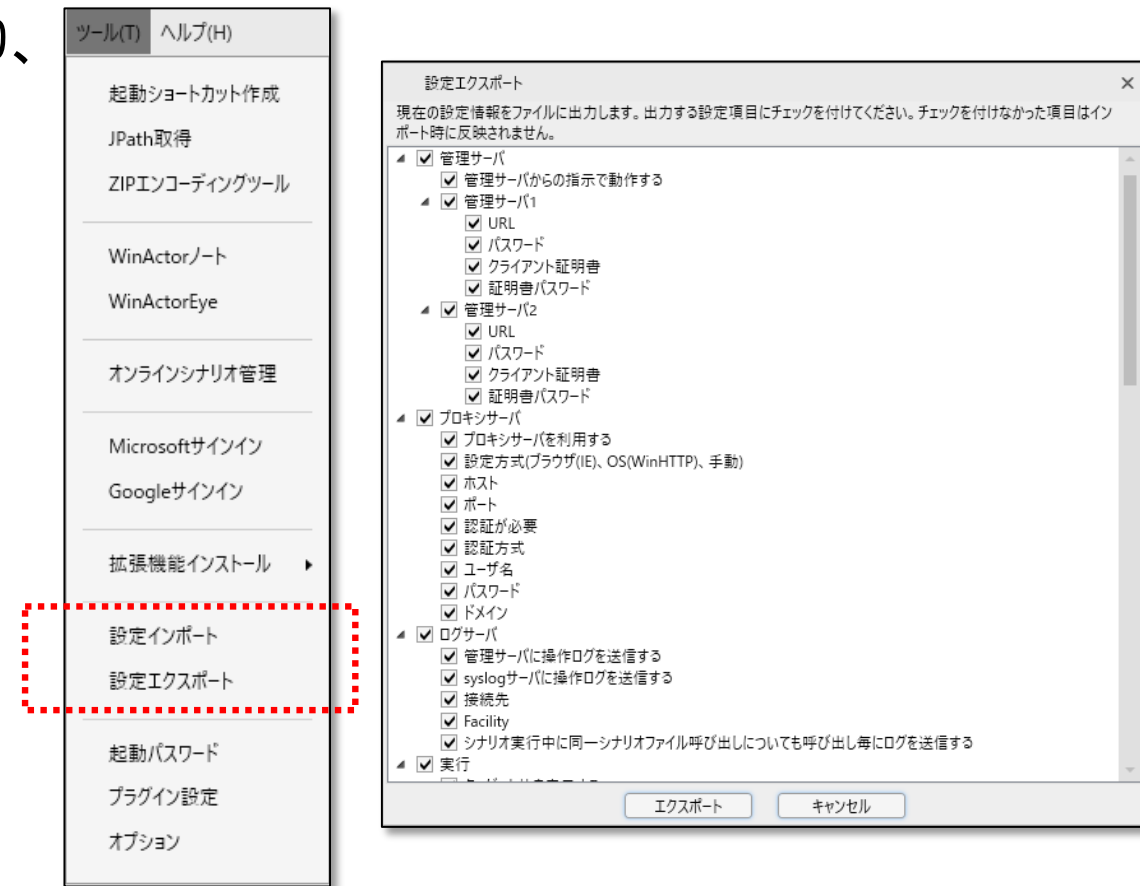
# 設定インポート・エクスポート機能



オプション画面の設定内容を  
外部ファイルを使ってインポート・エクスポート可能となります。

あるWinActorで設定した内容を他のWinActorに展開したり、  
設定情報のバックアップを取得しておき手軽に復元したり  
できるようになります。

設定情報をエクスポートする際は、  
[ツール]メニューから[設定エクスポート]をクリックし、  
エクスポートしたい項目にチェックを付けてください。  
設定情報をインポートする際は、  
[ツール]メニューから[設定インポート]をクリックし、  
インポートするファイルを選択してください。



※ 詳細は同梱の操作マニュアル(WinActor\_Operation\_Manual)の  
「3.2.3 ツールメニュー ■ 設定インポート 及び ■ 設定エクスポート」をご参照ください。

# Cloud Library検索機能 (1/2)



WinActorから直接Cloud Libraryを検索し、  
便利なライブラリやサンプルシナリオを利用できるようになります。

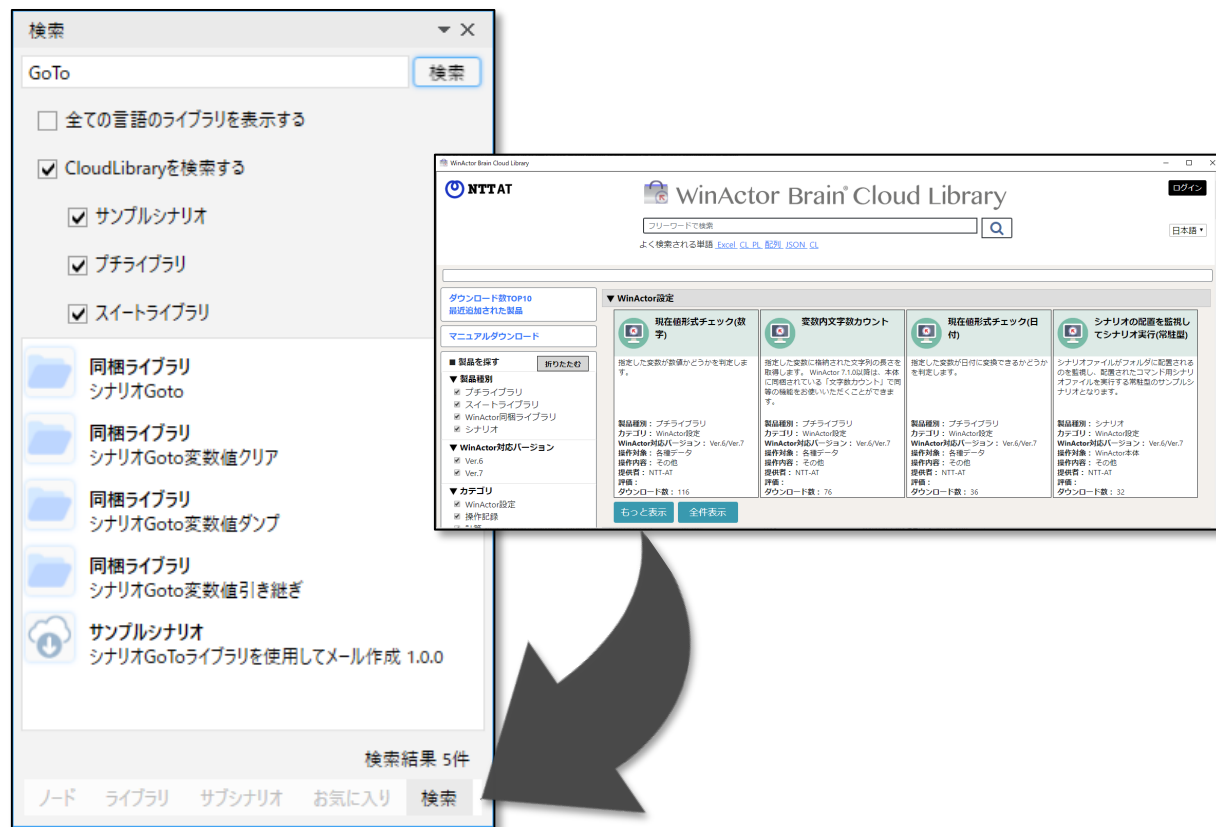


新規追加した「検索」パレットより、  
同梱ライブラリその他、  
Cloud Library上のライブラリやサンプルシナリオも  
含めたシナリオ利用可能な部品を横断検索できます。  
Cloud Libraryではシナリオ作成に便利な  
1600種類以上のライブラリやシナリオを提供しており、  
検索結果に表示されたライブラリやサンプルシナリオは  
そのままシナリオ作成に利用可能です。

※ プロキシ環境でCloud Libraryを検索する際は  
オプション画面よりプロキシサーバ設定を行ってください。

※ 「CloudLibraryを検索する」にチェックを付けた状態で検索を行うと、winactor.bizサイトと通信し検索結果を取得します。

※ Cloud Library検索機能の追加に伴い、インストーラでのWABAgentインストール、及び、[ツール]メニューの[Cloud Library]項目は廃止しています。





# Cloud Library検索機能 (2/2)

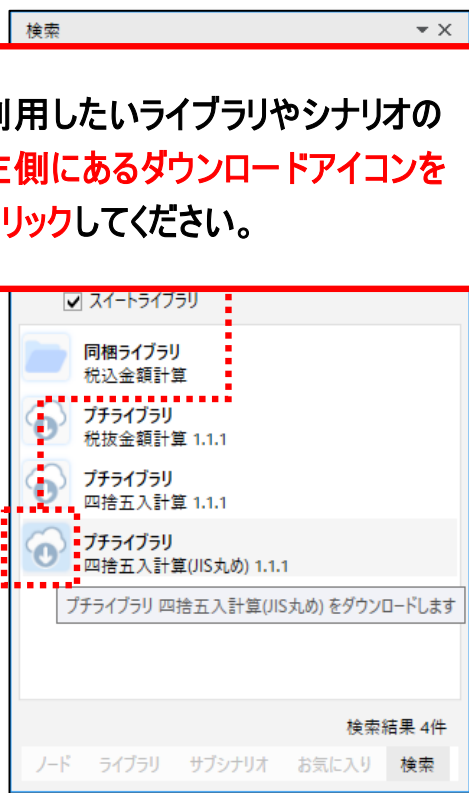


検索パレットで検索したライブラリやシナリオは以下の手順でご利用ください。



## ①ダウンロード

利用したいライブラリやシナリオの左側にあるダウンロードアイコンをクリックしてください。

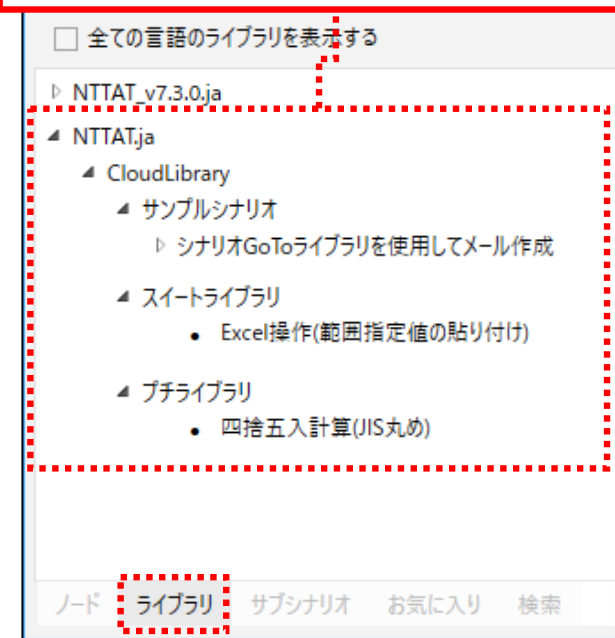


## ②ドラッグ & ドロップ

アイコンはダウンロード完了するとフォルダアイコンに変わります。フォルダアイコンのライブラリやシナリオは直接フローチャートにドラッグ & ドロップできます。(※)



Cloud Libraryからダウンロードしたライブラリやシナリオは「ライブラリ」パレットにも表示されます。他のライブラリと同様に、「ライブラリ」パレットからフローチャートにドラッグ & ドロップしてご利用いただけます。



※ サンプルシナリオは複数ファイルで構成されるため、直接ドラッグ & ドロップできません。

フォルダアイコンをクリックするとサンプルシナリオのフォルダが開きますので、直接必要なファイルをご利用ください。



# ノード整列機能

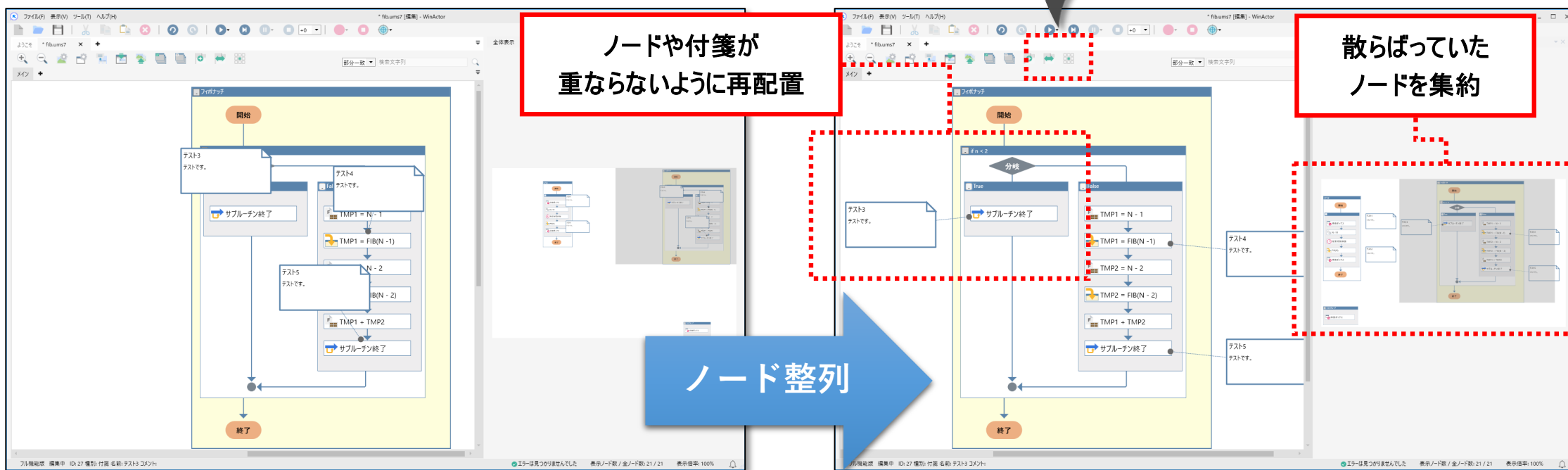
フローチャート上のノードや付箋を見やすく整列させる

**ノード整列ボタン**を追加します

新規追加したノード整列ボタンをクリックすることで、フローチャート上のノードを重ならないように整列させ、**ノードや付箋が見やすくなります。**



ノード整列ボタン



※ 詳細は同梱の操作マニュアル(WinActor\_Operation\_Manual)の「3.5.2 フローチャートツールバー ■ ノード整列」をご参照ください。

# UIAutomationライブラリの追加、操作性改善



UIAutomationを利用して実行したい操作に合わせて  
事前設定されたライブラリを提供します。

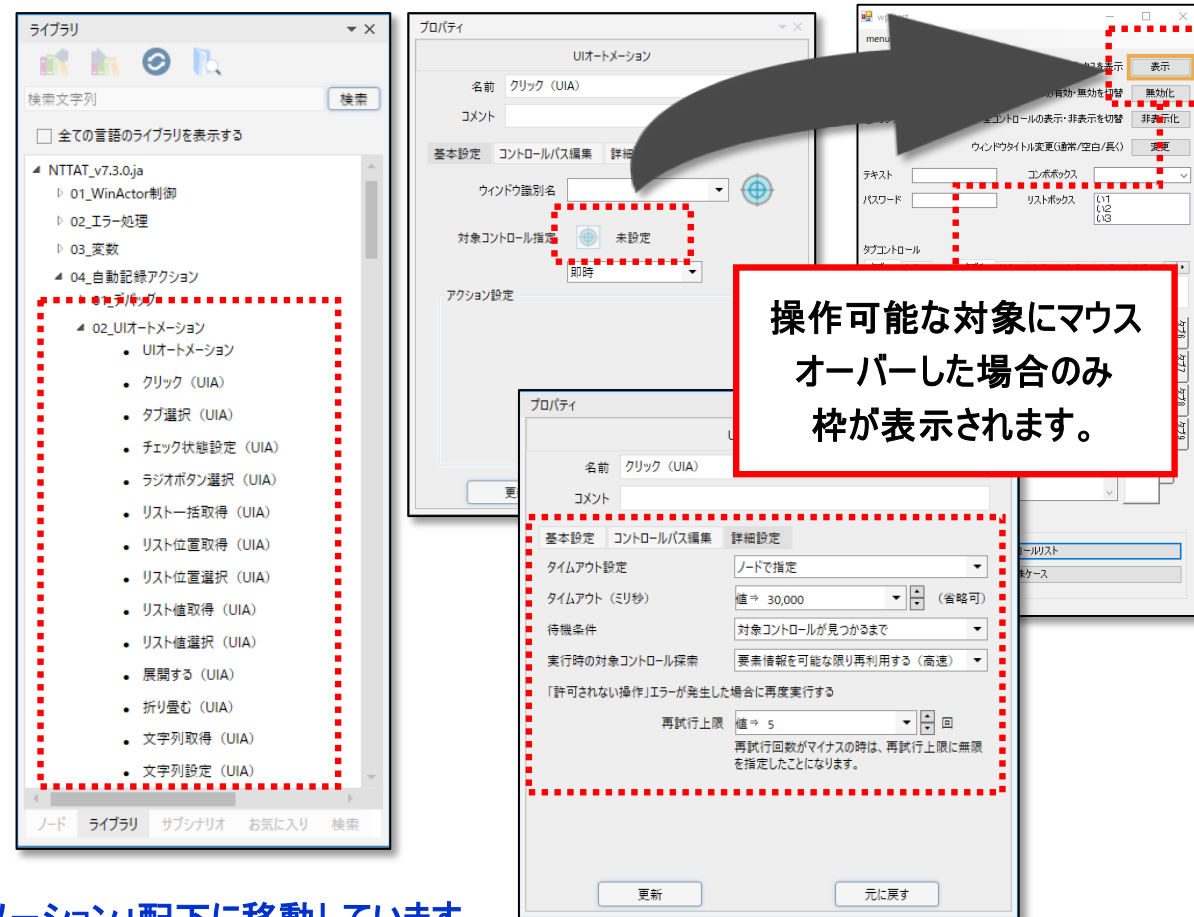


ライブラリの

「04\_自動記録アクション¥02\_UIオートメーション」  
に操作が事前設定されたライブラリを配置しています。

操作が事前設定された各ライブラリでは、  
対象コントロール指定時に**操作可能な対象にのみ**  
**オレンジ色の枠を表示**します。

また、プロパティ画面には「**詳細設定**」タブが追加され、  
自動待機のためのタイムアウト設定や、  
ノード実行速度に影響する対象コントロール探索方法の  
指定が可能です。



操作可能な対象にマウス  
オーバーした場合のみ  
枠が表示されます。

※ 既存の「UIオートメーション」ライブラリは「04\_自動記録アクション¥02\_UIオートメーション」配下に移動しています。

※ 詳細は同梱の操作マニュアル(WinActor\_Operation\_Manual)の「4.9.1 UIオートメーション」、及び、  
ユーザライブラリサンプル説明書(WinActor\_User\_Library\_Sample\_Manual)の「4.2 UIオートメーション」をご参照ください。

# 汎用HTTPライブラリ追加



これまでより**詳細な設定が可能なHTTP通信ライブラリ**を提供します。



既存のHTTPライブラリでは難しかった**RESTful APIのシステムとWinActorを連携**させることができるようになります。

フォームデータ、text、JSON等の**任意形式でボディ部を設定し**、HTTP/HTTPSにて通信することができます。

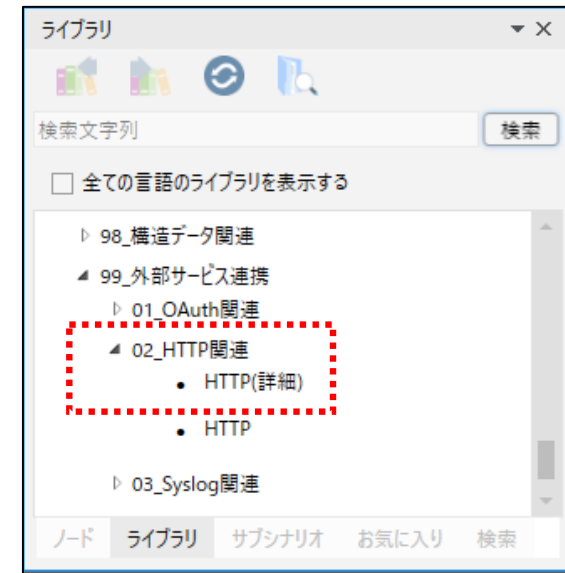
また、**マルチパート形式でのファイルアップロード・ダウンロード、クッキーの設定・取得、BASIC認証、プロキシ使用有無などの設定も可能**となっています。

ライブラリの

「99\_外部サービス連携¥02\_HTTP関連」

に「HTTP(詳細)」を追加していますので、

直接フローチャートにドラッグ&ドロップしてご利用ください。



※ 詳細は同梱のユーザライブラリサンプル説明書(WinActor\_User\_Library\_Sample\_Manual)の「99.2.1 HTTP(詳細)」をご参照ください。

# JSON操作作用ライブラリ追加



## 階層構造や配列形式のJSONを操作できるライブラリを提供します。

「98\_構造データ関連¥02\_JSON」に  
操作内容に合わせた複数のライブラリを追加しています。  
これらのライブラリを用いることにより  
より簡単にJSONを操作できるようになります。

階層構造のキーをドット(.)で区切り、  
配列要素をインデックスで指定できる  
JSON Path記法でJSONを操作できます。  
JSON Path記法を用いると  
右記のようなJSONに対して、  
直感的に操作対象要素を指定できます。

```
{
  "test1": {
    "test2": {
      "test3": "test4"
    }
  },
  "books": [
    {
      "id": 1,
      "name": "book1",
      "price": 1000,
      "tag": "tag1"
    },
    {
      "id": 2,
      "name": "book2",
      "price": 2000
    },
    {
      "id": 3,
      "name": "book3",
      "price": 3000,
      "tag": "tag3"
    }
  ]
}
```



○ドット(.)区切りで階層指定  
test1.test2.test3  
⇒“test4”

○インデックスで配列指定  
books[0].name  
⇒“book1”

○コロン(:)で複数要素指定  
books[1:3].price  
⇒2000,3000  
※コロンの後ろ側の要素は取得対象に含まれません

○特定キーのみ指定  
\$..tag  
⇒“tag1”,“tag3”

※ 詳細は同梱のユーザライブラリサンプル説明書(WinActor\_User\_Library\_Sample\_Manual)の「98.2 JSON」をご参照ください。

# シナリオ雛型作成機能改善



シナリオ雛型作成機能が対応する操作が増え、さらに使いやすくなります。

## 新しいイベント種別

「文字入力」「閉じる」「ウィンドウを閉じる」に対応しました。

プレビュー画面では、

エラー箇所が赤く表示されるとともに、画面下部に一覧で表示します。

また、起動オプション「-f」(起動時に開くファイルの指定)で雛形ファイルを指定できるようになり、

新規オプション「-sa」(指定ファイル名で保存して終了)と組み合わせて

雛形ファイルを順次シナリオ変換できます。

※ 詳細は同梱の操作マニュアル(WinActor\_Operation\_Manual)の1.18.1節及び2.1.3節、シナリオ雛型ファイル(WinActor\_Scenario\_Template\_File)の2.4節をご参照ください。



エラーのある行は赤い背景色で強調表示されます。

No	ノード名	コメント	付箋	イベント種別	アプリケーション	操作	付加情報1	付加情報2	付加情報3	付加情報4	付加情報5
1	「受注伝票.csv - E	フロ- No.1	★例外処理 画面に警告が表示	グループ							
1-1	「Down」を入力す	フロ- No.3		キー入力	EXCEL	受注伝票.csv - Ex	Down				
1-2	「F2」を入力する	フロ- No.4		キー入力	EXCEL	受注伝票.csv - Ex	F2				
1-3	「Shift+Up」を入	フロ- No.5	C列コメントは、プロ D列付箋がある場	キー入力	EXCEL	受注伝票.csv - Ex	Up	Shift			
1-4	「25000001」をコ	フロ- No.6		コピー	EXCEL	受注伝票.csv - Ex					
1-5	「25000001」をコ	フロ- No.6-2	EXCELアプリケーション 付加情報 1、2 が 付加情報 1 でパス	コピー	EXCEL	受注伝票.csv - Ex	a.xlsx				
2	「伝票管理」画面	フロ- No.7		グループ							
2-1	「Ctrl+V」を入力	フロ- No.9		貼り付け	受注伝票システム	伝票管理					
3	「受注伝票.csv - E	フロ- No.11		グループ							
3-1	「B2」をLeftクリ	フロ- No.13		選択	EXCEL	受注伝票.csv - Ex	a.xlsx	B2			
3-2	「1111111」をコ	フロ- No.14		コピー	EXCEL	受注伝票.csv - Ex					
4	「伝票管理」画面	フロ- No.15		グループ							
4-1	「Ctrl+V」を入力	フロ- No.17		貼り付け	受注伝票システム	伝票管理					
5	「受注伝票.csv - E	フロ- No.18		グループ							
5-1	「C2」をLeftクリ	フロ- No.21		選択	EXCEL	受注伝票.csv - Ex	C2				

エラー一覧 更新

6行目：パラメータが不正です。「付加情報3」を確認してください。No=1-5、ノード名=「25000001」をコピーする  
10行目：パラメータが不正です。「付加情報3」を確認してください。No=3-1、ノード名=「B2」をLeftクリックする  
15行目：パラメータが不正です。「付加情報3」を確認してください。No=5-1、ノード名=「C2」をLeftクリックする

シナリオ作成 キャンセル

エラーメッセージをダブルクリックすると対象行が選択状態になります。

# Storyboardのポッド追加及び操作性改善

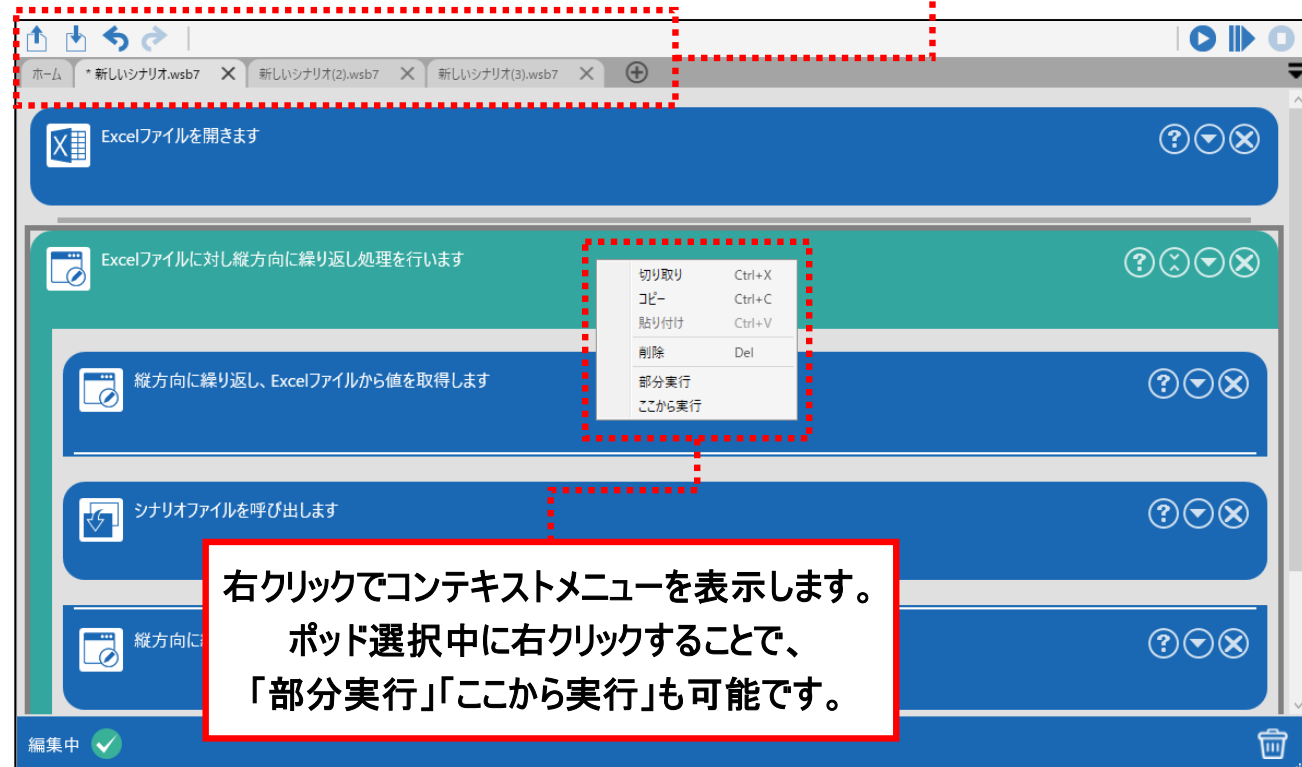
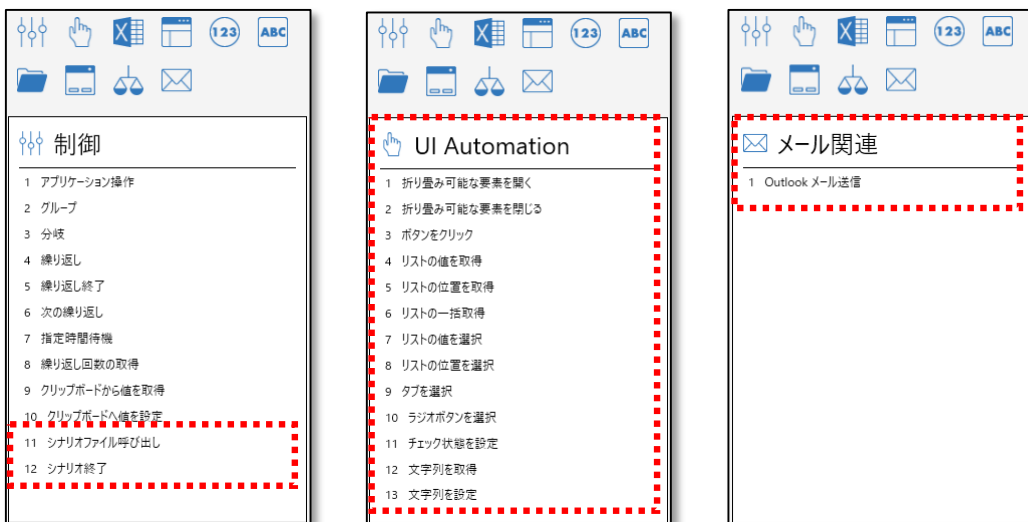


Storyboardに新しいポッドを追加するとともに、  
複数シナリオ同時編集や右クリックメニューに対応します。



シナリオファイル呼び出しやUI Automation、メール関連のポッドが追加され、  
さらに幅広い業務に対応したシナリオを作成できます。  
また、複数シナリオを同時に開けるマルチドキュメント、  
右クリックから様々な操作を可能なコンテキストメニューに  
対応し、より効率的にシナリオ編集が可能となります。

複数シナリオを同時に開いて編集可能です。  
新規シナリオを作成する際は  
右側の「+」アイコンをクリックしてください。



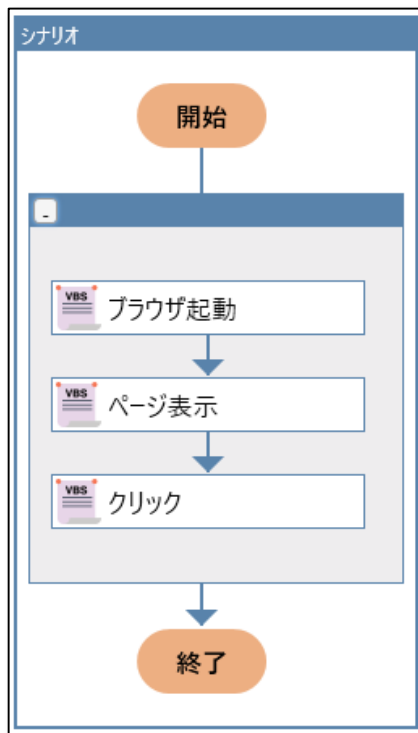
※ 新規追加ポッドの詳細は、各ポッドのヘルプメニュー(「?」マークのアイコン)をご参照ください。

# ブラウザ操作系ライブラリの改善



「23\_ブラウザ関連」ライブラリのプロパティ画面がより編集しやすくなります。

ブラウザ操作系ライブラリのプロパティ画面において、直前のノードで設定した「ブラウザ名」が初期設定され、毎回ユーザーが設定する必要がなくなります。ブラウザ上で要素をクリックするだけでXPathを設定できるボタンを追加され、外部のデバッグツールを用いることなくXPathを設定できます。



直前に指定したブラウザ名を初期設定

「ブラウザ」ボタンを押すと直前の「ページ表示」で指定したページがブラウザで開きます。「選択」ボタンを押すと操作可能な要素が青枠で強調表示されるので、クリックで選択してください。

※ XPath選択ボタンはGoogle Chromeをインストールしている環境でのみ利用できます。

※ Webページ上の全ての要素や要素の集合が対象となり得るライブラリ(要素数取得、状態変化待機(値)、状態変化待機(要素))や、フレームを操作対象とするライブラリ(フレーム選択)はXPath選択ボタンに対応していません。



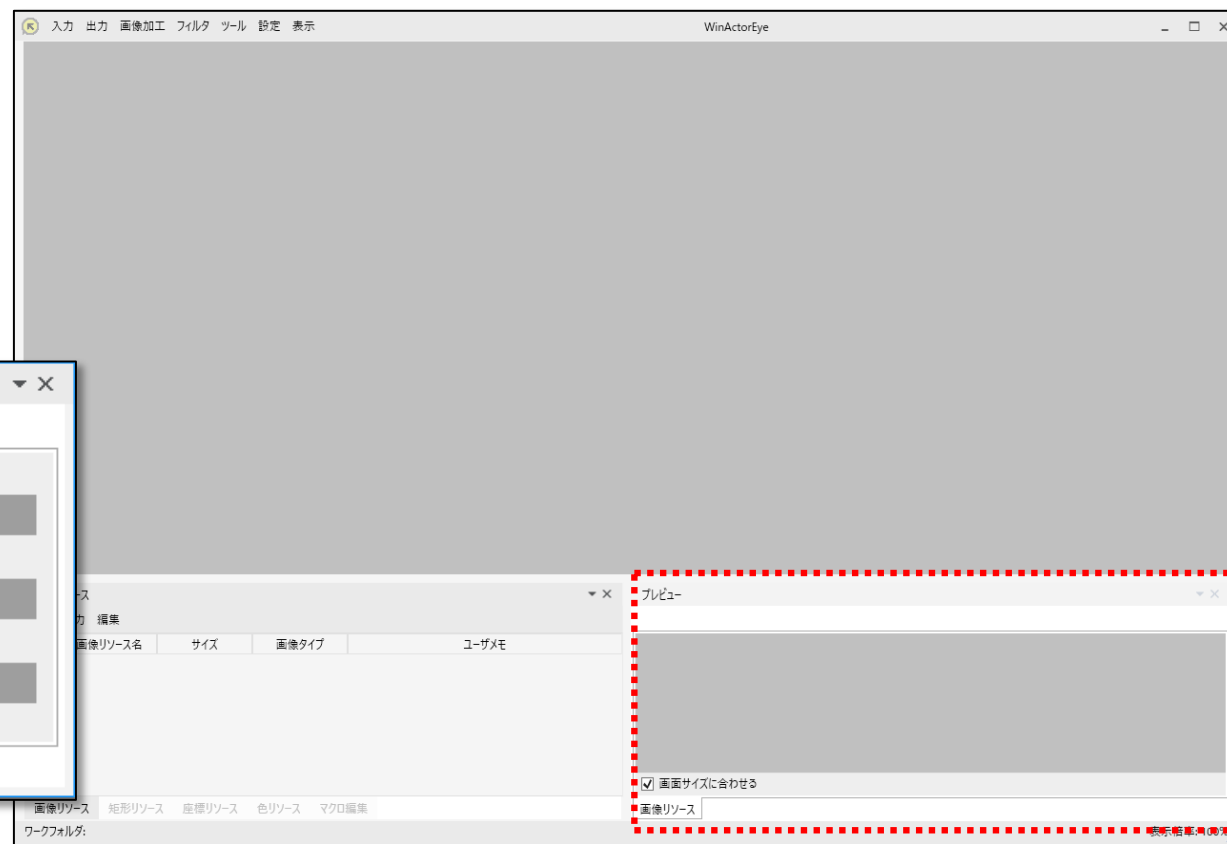
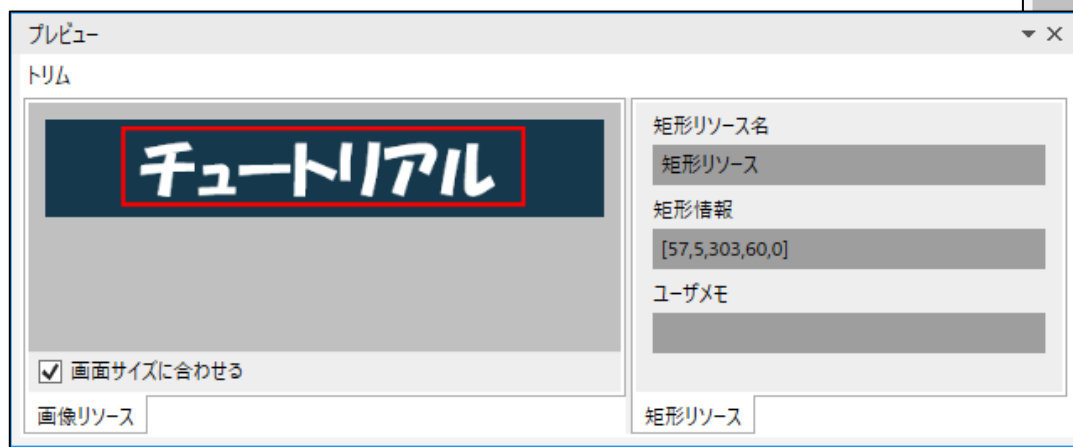
# 【WinActorEye】プレビュー画面の追加



WinActorEyeにおいて各機能の**入力ソース情報をプレビュー表示**する機能を提供します。



現在編集している機能に応じて自動的にプレビュー画面表示が切り替わり、より効率的に画像を編集できるようになります。



※ 詳細は同梱のWinActorEye操作マニュアル(WinActorEye\_Operation\_Manual)の「10.7 プレビュー」をご参照ください。

# 【WinActorEye】 WinActorEyeライブラリの追加



WinActorEyeの各機能をシナリオから  
利用できる新規ライブラリを追加します。

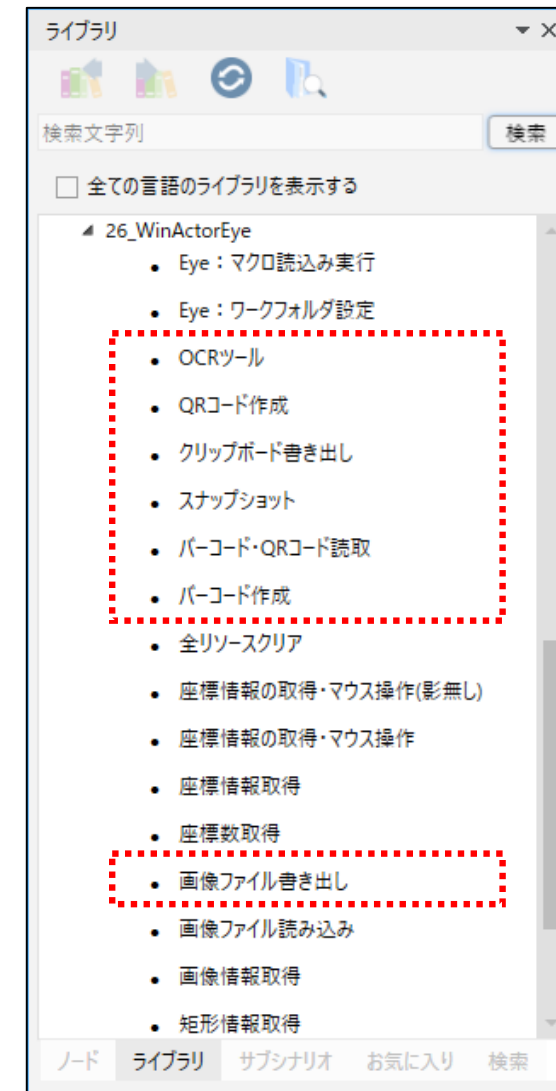
WinActorEyeと連携した高度な画像処理を

シナリオに取り込みやすくなります。

ライブラリの「26\_WinActorEye」に

以下の7つのライブラリが追加されます。

- OCRツール
- QRコード作成
- クリップボード書き出し
- スナップショット
- バーコード・QRコード作成
- バーコード作成
- 画像ファイル書き出し



※ 詳細は同梱のWinActorEyeシナリオ作成マニュアル(WinActorEye\_Scenario\_Creation\_Manual)の3.12節～3.18節をご参照ください。



# 互換性に関する修正（1/2）

Ver.7.3.0では互換性に関する以下の修正を行っています。

これらは WinActor Ver.6 との互換性を向上させるためのものですが、その結果としてWinActor Ver.7.0.1～Ver.7.2.1 と動作が異なってしまいました。

そのため Ver.7.0.1～Ver.7.2.1 の**動作にあわせたシナリオが動作しなくなる**場合があります。

- ① 「シナリオファイル呼び出しノード」、「シナリオGotoライブラリ」を実行すると、WinActorノート及びWinActorEyeで読み込んだデータが初期化されてしまう問題を修正しました。WinActorノート及びWinActorEyeで読み込んだデータがシナリオ実行開始時に初期化される挙動には変更ありません。シナリオ実行中にWinActorノートで読み込んだデータを初期化したい場合には、新規ライブラリ「25\_WinActorノート/ノート:テキストクリア」をご利用ください。



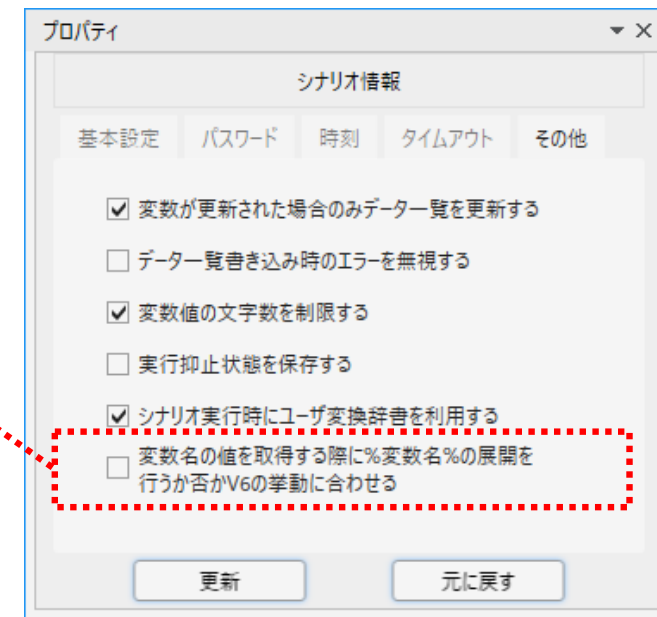
## 互換性に関する修正（2/2）

Ver.7.3.0では互換性に関する以下の修正を行っています。

これらは WinActor Ver.6 との互換性を向上させるためのものですが、その結果としてWinActor Ver.7.0.1～Ver.7.2.1 と動作が異なってしまいました。

そのため Ver.7.0.1～Ver.7.2.1 の**動作にあわせたシナリオが動作しなくなる**場合があります。

- ② 変数の値に「%変数名%」が含まれる場合に、一部ノードで意図せず展開処理が行われていた問題を修正しました。Ver.7.3.0では、待機ボックス、インプットボックス、選択ボックスのメッセージに変数を指定した場合、変数の値に含まれる「%変数名%」の展開処理を行います。Ver.6と同様に一部のノードにて変数の値に含まれる「%変数名%」を展開したい場合は、シナリオ情報画面のその他タブに追加しました**設定項目**にチェックを入れてください。  
 なお、ums5及びums6のシナリオファイルを読み込んだ場合は、自動的に上記のチェックが入った状態となります。



※ 詳細は同梱のWinActor操作マニュアル(WinActor\_Operation\_Manual)の「3.8.5 その他タブ 表3-51」「5.1.6 %変数名%の利用」をご参照ください。



# 改善、要望の一覧について

Ver.7.3.0にて行いました改善の一覧(80件)は「WinActor\_v730\_upgrades\_20210916\_r1.pdf」に記載します。

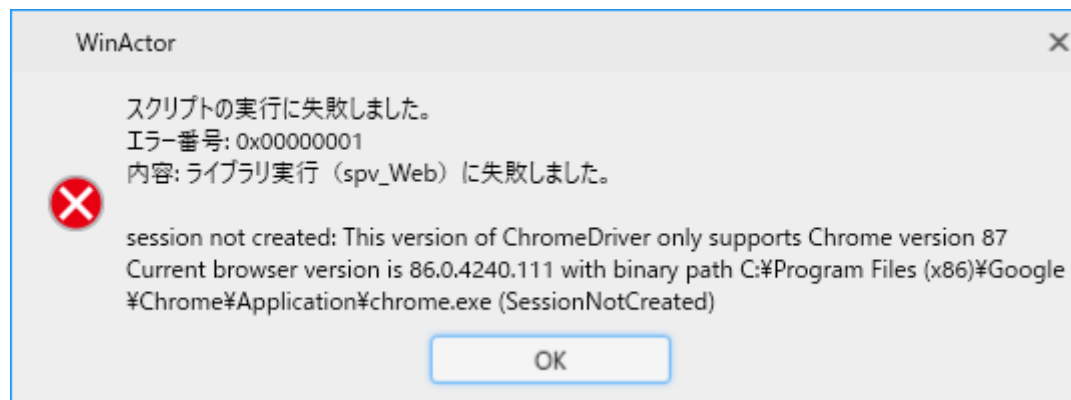
Ver.7.3.0にて対応を行いました要望の一覧(30件)は「WinActor\_v730\_requests\_20210916\_r1.pdf」に記載します。

また、上記改善一覧とは別に、WinActor及びWinActor Storyboardで表示するメッセージをより分かりやすくするため見直しています。

# Ver.7.3.0に関する想定質問と回答



項番	カテゴリ	質問	回答
1	ライブラリ	Ver.7.3.0にて「23_ブラウザ関連」カテゴリのライブラリを含むシナリオを実行すると、以下のダイアログが表示される。	Ver.7.3.0ではGoogle Chrome、Microsoft Edge(Chromium)、Mozilla Firefoxの操作に利用するWebDriverのバージョンを更新しました。これにより、古いバージョンのブラウザを利用されている環境ではシナリオ実行時にエラーとなることがあります。このエラーが表示された場合は、ご利用のブラウザのバージョンに合わせたドライバを導入いただけますようお願いいたします。 WebDriverの導入手順については、ブラウザ操作シナリオ作成マニュアル(WinActor_Browser_Operation_Scenario_Creation_Manual)の「4. WebDriverの導入手順」をご参照ください。 また、Ver.7.3.0で追加しました自動更新機能により、ご利用のブラウザバージョンに合わせてWebDriverを更新することも可能です。



※ エラーダイアログの中のバージョン情報やファイルパスは環境により異なります。



# WinActor<sup>®</sup> Ver.7.3.0 リリースノート

NTTアドバンステクノロジー株式会社

Copyright(c) 2021 NTT Corp. & NTT Advanced Technology Corp. All Rights Reserved.

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で複写、複製することは禁じられています。  
本書の内容は予告なく変更される場合があります。

64-H-0916

※WinActor®はNTTアドバンステクノロジーの登録商標です。

※本資料内に記載されている会社名、ロゴ、商品名、またはサービス名は、各社の商標または登録商標です。

未来を拓くチカラと技術。

